



この手紙は、平塚幼稚園のことを一人でも多くの人に知っていただきたいという思いから、在園児の父母で作りました。ご一読くだされば幸いです。

平塚幼稚園保護者会

長男が1歳の頃、お散歩をしていてたまたま通りかかったのが平塚幼稚園でした。園庭で咲き誇る清閑の枝垂れ桜とその下でお花見をする親子。大きな木もあるし、奥の方には雰囲気のある木造の建物。都内にこんな所があったんだ〜 えっここ幼稚園なの!?! なんかに楽しそう!と思ったのを今でもよく覚えています。

次男が生後2ヶ月のときに長男が入園。園バヌもないし給食もないし、もう少し(親が)ラクな幼稚園にしておけば...なんて思った日もありましたが、毎日一緒に園へ行くことで見えてくる我が子の姿や、先生方に任せきりにしないで、園、親、そして他のお母さんまでみんなで支え合、子どもたちを育て合うという恵まれた環境に出会えて良かったと思っています。

入園前までの子育ては特に不安も不満もないと思てやっていたんですが、今、子どものことを気軽に話せる環境になり、今までは結構孤独に子育てをしていたのだなと、今更ながら気が付きました。

やはり人は一人では生きられない、人々どのように関わりながら成長していくのか、息子も私も日々鍛えられながら楽しく幼稚園に通っています。

年中



~~~~~



我が家は今年3人目が入園しました。

人見知りなくよくしゃべる長男、1人遊びが好きで、年中で朝泣いて登園していた次男、幼稚園のターザンロープ大好きな在園中の長女。性格はバラバラです。年子の次男が通いだしたころ毎朝泣いてお父さんに干渉が半ば登園する姿を見て次男はこの幼稚園ではなかったかな...と卒園まで思っていました。ところが小学校へ入学してから楽しそうに通う姿に驚きました。子どもにとって好きなこと苦手なことも平塚幼稚園はたくさん経験をさせてくれます。泣いていた次男もたくさん苦手なことを経験したからこゝろ楽しい小学校生活を送れているのだと感じました。広い園庭、火田の野菜、田んぼ遠足、ニワトリ、みそ汁、夏のプール、おとまり会、運動会、収穫祭も充実。こんなわくわくする園他にはない!?!と思っけて。判

我が家は「人との関わりの中で喜びや達成感を感じながら成長して欲しい」と考え平塚幼稚園を選びました。早生まれで何をすることも慎重な息子には畑、田んぼ遊び、広い園庭での日常は大変で、年少時はその基礎作りでした。

「ママがいい!」と大泣きする日々でしたが、その気持ちもどこから来ているものかを一糸に考え言葉にしてくれる先生や、何が嫌なのかと気持ちを読みとってくれようとするお友達や年長さんの存在が息子にだけなく親にも安心出来る環境でした。年中になつて今「みんな何がいい?」「どうして?」など仲間とコミュニケーションを回りながら園生活を楽しく充実させている姿があります。色んな過程を経て成長ステップの子供をそばで見守り、親子で密な時間をとれる素敵な園です。年中



言葉の遅れや音に敏感、こだわりが強いなどの特性があり、入園当初、園生活を楽しく送れるのか、母親の私が、一番不安でいっぱいでした。しかし、何の矢入観なく、そうたのそのままの姿を見て、関わって下さる先生方、お母さん達、お友達によって、楽しい幼稚園が送れています。入園当初は、一人で砂場で遊んでいることが多く、なかなかお友達と遊ぶことができませんでした。しかし、小グループの活動をやるなかで、家でお友達の名前がでてくる様になつたり、みんなからルールを教えてもらってドローをしたたり...お友達と関わりを通して、そうたの世界は、大きく広がり、とても成長した様に思っています。子どもと心と身体を育てる力がみなぎる平塚幼稚園で過ごす三年間は、子どもだけでなく、親も実りある時間を過ごせると実感しています。

年長



平塚幼稚園には、次男の時からお世話になっています。入園し、素敵な出会いがたくさんありました！広い園庭がある環境、先生、保護者、仲間たち！

長男は違う園に通っていたので、違いに驚くことばかり！先生や保護者が子どもの育ちを大々かに考えて関わってくれるのを目の当たりにして、長男の時の子育てを反省！

(例えば、長男は忘れものかひどくいびきをかいてしまいが、私がやりすぎで自立してしまっていた！と初めて気がきました。生活面だけでなく、心や身体の成長を促す関わりも同じく反省！)

この時から私の「子育て」が始まった気がします。

子どもと向き合い、その時の問題に悩みながら取り組むと、子どもはどんどん成長していきました。「次男の成長は、ママの成長だね」と言ってもらえたことも。

子育ては自分と向き合う時間でもあり、苦しい時もありますが、いつも先生や周りのお母さんが一緒に考えてくれたのがとても貴重な時間でした。

今年三男が入園しました。三人ともタイプが違い、また違う悩みに直面しています。でも、一緒に子育てしてくれる先生や周りのお母さんたちがいる安心感があります！

同時に親子でどれだけ成長出来るかなと、楽しみです！

年長



平塚幼稚園では、親と子育て、田んぼでお米を作ります。子どもたちは、苗から稲を育て、泥だらけになりながら、田んぼで力を合わせます。親たちも、有志での作業日に集い、園長先生はじめ園のスタッフとあいまい取り組みます。先日、田んぼで泥にたっぷりつかって来た代かき遠足の後息子たちは「田んぼではワニ泳ぎをしたよ、お父さんも明日田んぼなら、ワニ泳ぎして来たよ！」と楽しそうに言ってくれました。自分も、代かきで泥をたっぷり浴びながら耕うん機を進め、(ワニ泳ぎは遠慮しましたが)子どもたちが泥の中ではじけるような笑顔で遊ぶのを見るのができました。同じ田んぼで過ごす、子どもたちがこの泥の中で何を感じ取っているのだろうと考えるのが楽しく、子どもたちが収穫まで、日々何を感じ、成長していくのか、自分も時間の許す限り、近くで直接関わりたいと思うようになりました。田んぼに限りず、こうした思いが、歴史ある園の根っこにあるのかも感じます。今年も、収穫まで子どもたちと一緒に取り組めるのが本当に楽しみです。

(年長)

父

子ども同士の関わり合いも金銭にして、母として私自身の課題に気づける機会が入園してからたくさんありました。

こんしん会や保護者会活動を通してとことん向き合い、子どもと一緒に私も成長させてもらっているところです。

例えば、子ども同士のけんかに対する私の姿勢。“こうだからこうしたら？”と解決に導くことが役目だと思っていました。

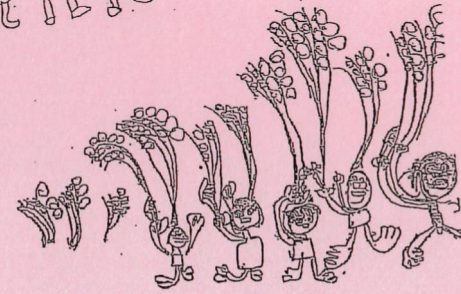
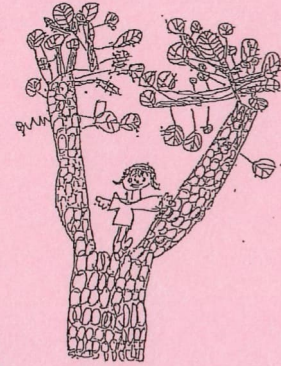
でもそれは価値感の押し付けで、子どもの本心は置いてけぼり。人との関わり合いで大事なものは、解決よりも、その過程。

たくさんお話をしてお互いを分かり合うことだと、3年かけて気がついてきました。子育てのハウツー本や学べる情報は溢れていますが、この園での実体験による学びに勝るものは無いと実感しています。

年長組の娘から「自分で考えられない人になるから、ママはあれこれ口出ししないで！」と言われたことがあります。私の課題は、子どもを信頼して黙って見守ること。

子どもたちや親同士、そして先生と関わり合いながら、ひとりでは無い安心感のなかで課題と向き合っています。年長

年長



長女が平塚幼稚園に入園したのは14年前。大きなクスノキと自然豊かな園庭、温かいお木造園舎。そして、人との関わりを大事にする保育に一目惚れし、娘の入園を決めました。以来、5人の子どもたちはみんなこの園で過ごしています。

現在年長のクラスに通う次子が幼稚園の話をする時、他の子どもたちも「覚えてる！収穫祭で付いたお米だね」とか遠足で行った田んぼの話、幼稚園で歌った歌、7月-7月の仲間と合宿で行った話、みんなで行った“牛つなぎ鬼”の遊びなど、昔の思い出話で盛り上がります。幼稚園時代の記憶と経験が残っているのです。

長女が入園する前は、子どもとこどもで過ごすことが多く、子育ては自分何かしなくてはと思っていました。しかし、入園してからは、真剣に子どもたちや保護者と向き合ってくれた先生たち、我が子以外の子どもたちのことにも気がかけ、子どもの成長を共に喜び合える保護者たち。そして学年を越えて、関わり学んで合える保護者会活動を通して、子育ては一人じゃ頑張らな。時に人に頼ったり、相談したり周りの人たちと共に考え合うことの良さを実感した日々でした。

また、「子どもは人々との関係の中で育つこと」「子どもの力を信じて」「気持ちを伝え合うことの大事さ」そして何よりも「より良い環境は自分たちで作ること」。

子どもたちを通わせる中、たくさん大事なことを学びました。子どもにとっても親にとっても人生の土台を築けるそんな幼稚園です。年長